

可能性としてのベ平連

地域の運動経験からいま、何を受けとるか



第1部 ベ平連とは何か？

なぜいま、地域ベ平連なのか？

吉岡忍（元ベ平連、作家）

平井一臣（鹿児島大学名誉教授）

第2部 地域ベ平連 当事者の経験と記憶から

八田紀代子（元長崎ベ平連）

港那央（日本学術振興会PD）

鷲野正和（元福岡ベ平連）

市橋秀夫（埼玉大学教員）

日時 2025年11月29日（土）13：30～17：30（開場13：00）

会場 立教大学池袋キャンパス 14号館 3階 301教室

（東京都豊島区西池袋3-34-1。池袋駅西口より徒歩7分）

参加無料・事前申込不要

交通アクセス キャンパスマップ



主催： 地域ベ平連研究会

共催： 立教大学共生社会研究センター、
科研費・基盤研究（C）「ベトナム
反戦運動と市民社会ネットワーク形
成についての研究」

問合せ先： 立教大学共生社会研究センター
kyousei@rikkyo.ac.jp

ベ平連通信
ふくおか

ALL POWER TO THE PEOPLE!!

沖縄・ベ平連ニュース

ベトナムに平和を！
市民連合通信
1969
6.10
NO.17

今年2025年は「戦後80年」に大きな注目が集まってきましたが、ベトナム戦争終結50年の節目でもありました。ベトナム戦争は「戦後」の日本の政治や経済がアジアでの戦争とさまざまなかたちで結びついていることを浮き彫りにした出来事でした。自らを含む日本社会がベトナムでの殺戮や破壊を支えていることへの怒りが共有され、さまざまな反戦運動が広がっていきました。日本のベトナム反戦運動を牽引した「ベトナムに平和を！市民連合」（ベ平連）は1965年に東京で発足しました。本年は、ベ平連発足から60周年にあたります。

ベ平連は中央・支部からなる上意下達式の組織形態をとらず、規約や綱領もつくらず、参加した誰もが「ベ平連」を名乗ることができる、人びとの自発的な参加を重視する運動でした。そのため、400近くものベ平連が日本各地につくられ、多様な運動を展開しました。しかし、これまで「ベ平連」といえば「東京のベ平連」が紹介されることが多く、各地域に生まれた「地域ベ平連」の豊かな運動に注目が集まることはほとんどなかったといえます。

本シンポジウムは、「地域ベ平連」のさまざまな運動の姿を明らかにした『可能性としてのベ平連 地域の運動経験と未完の記憶』（市橋秀夫・大野光明・平井一臣編、ミネルヴァ書房、10月刊行予定）の刊行を記念して、ベ平連とその各地域での多様な展開、当事者の反戦運動やベトナム戦争以降の経験などを広く共有するためのものです。ウクライナ戦争やパレスチナでのジェノサイドが止まることなくつづき、また、日本社会が急激に軍事化されている状況のなかで、わたしたちのこれからの社会や運動のあり方、自らの生き方を考えるために「地域ベ平連」を再検討したいと思います。

市橋秀夫・大野光明・平井一臣編 『可能性としてのベ平連

——地域の運動経験と未完の記憶』 ミネルヴァ書房 2025年10月刊行（予価 5,500円＋税）

- 序章 地域ベ平連研究の意義・視座・課題——その意義・視座・課題
（市橋秀夫・大野光明・平井一臣）
- 第1章 「ベトナムに平和を！」神戸行動委員会からベ平連こうべへ
——神戸のベトナム反戦運動八年の経験 （黒川伊織）
- 第2章 ベ平連運動における地域の「発見」
——千葉ベ平連と三里塚闘争の出会いを手がかりにして （相川陽一）
- 第3章 沖縄ベ平連と反安保連合
——1960年代後半の沖縄をめぐる政治・運動の変化のなかで （大野光明）
- 第4章 ベ平連にとっての「1968年」——福岡と北九州 （市橋秀夫）
- 第5章 キャラバンから見る地域ベ平連
——全国縦断日米反戦講演旅行から九州キャラバンへ （平井一臣）
- 第6章 ベ平連と女たち——結成期の長崎ベ平連を中心に （港那央）
- 第7章 「反戦のための万国博」にみる地域ベ平連 （大野光明）
- 第8章 初期『AMPO』からたどる「国際連帯」の展開
——一つの「ポスト・ベ平連」運動史 （松井隆志）
- 第9章 ベ平連の「アーカイブズ」再考——残されたもの、そしてこれから （平野泉）
- 補論 現代史研究の方法と史料について——執筆者による討議
- コラム （関谷滋、高木恒一、宮本皐、平田雅己、市橋秀夫、港那央）